

授業科目名	企業メセナ論	担当教員	寺田 卓矢
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年 第1クォーター		
講義内容	<p>企業メセナとは、企業による短期的な経済的見返りを求めない芸術文化への支援活動であるが、その意義や形態は時流に合わせて多様な変化を遂げてきた。芸術文化はいかに社会のイノベーションに寄与し、経済の活性化に貢献することができるのだろうか。</p> <p>本講義では、企業メセナの歴史および具体的な形態と事例を学ぶとともに、今日的な課題について考察する。また、日本において企業メセナの礎を築いてきた代表的な実業家の思想や活動、さらに諸外国の事例を概観する。取り扱う事例としてはいわゆる芸術（演劇、音楽、舞踊、美術など）だけでなく生活文化や郷土芸能、あるいはまちづくり等の領域に関わるものまでを含め、文化・経済・地域社会の関係を多角的に考察する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業メセナについて、その語源と歴史の変遷について理解する。 ・企業メセナの形態と国内外の事例について理解する。 ・日本において企業メセナの礎を築いてきた実業家について、その思想や活動実績を理解する。 ・企業メセナが抱える今日的課題について概要を説明し、自分の見解を述べることができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 企業メセナ前史：「パトロネージュ」「三方よし」「企業の社会的責任」 3. 企業メセナ協議会の活動① 4. 企業メセナ協議会の活動② 5. 実業家に学ぶ①小林一三（阪急電鉄）：宝塚歌劇団 6. 実業家に学ぶ②佐治敬三（サントリー）：サントリーホール、サントリー美術館 7. 実業家に学ぶ③堤清二（西武）：PARCO 劇場、セゾン文化財団 8. 実業家に学ぶ④松方幸次郎（川崎重工業）、石橋正二郎（ブリヂストン）、大原孫三郎・總一郎（クラレ）、福原義春（資生堂）：絵画蒐集と美術館 9. 多彩な企業メセナ①：マスコミと百貨店 10. 多彩な企業メセナ②：地域とのかかわり 11. 多彩な企業メセナ③：諸外国における事例 12. 最終レポート作成 		
事前・事後学習	各回の授業内で適宜指示する。		

テキスト	各回の授業において資料を配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・企業メセナ協議会ウェブサイト（「ウェブライブラリー」など） ・加藤種男（2018）『芸術文化の投資効果 メセナと創造経済』水曜社 ・菅家正瑞・佐藤正治（2010）『企業メセナの理論と実践 企業はなぜアートを支援するのか』水曜社 ・永谷健（2007）『富豪の時代 実業エリートと近代日本』新曜社 ・高階秀爾（1997）『芸術のパトロンたち』岩波書店
成績評価の基準	授業内での発言(25%)、各回小レポート(25%)、最終レポート(50%)
履修上の注意 履修要件	特になし
実践的教育	該当しない
備考欄	<p>定員を超えた場合は、抽選を実施する。</p> <p>R 9 閉講(R 8 まで)</p>